柴岡ゆうま

しばおか

埼玉北部地区委員長

子育て世代が政治をかえる

市民と野党

力をあわせてなくそう 安保法制＝戦争法

つくろう 原発ゼロの日本

日本共産党

8時間働けばふつうにくらせる社会

◆ブラックなくし、格差のない社会へ

ブラックな働き方をなくし、人間らしく働けるルールを。正社員が当たり前、サービス残業をなくし、長時間労働の規制と時間短縮。中小企業への賃金助成や社会保険料の減免などの財政支援をつよめ、最低賃金はいますぐ、どこでも時給1000円にし、1500円めざす。

税金の使い方・集め方をかえる

◆社会保障を最優先に

年金削減の中止。高すぎる医療費の窓口負担を減らす。介護保険の負担を軽くし、特養ホーム待機者の解消。

◆子育て支援の抜本的拡充を

高すぎる国の保育料基準を引き下げて、保育料の減免を拡充する。月額3万円、70万人分の給付制奨学金制度をつくる。大学の学費（授業料）を段階的に値下げし、10年間で国公立も私学も半減に。

◆消費税に頼らない「別の道」

大企業への減税バラマキを中止し、「税金は負担能力に応じて」の原則にたった公正で民主的な税制改革をおこない、消費税増税に頼らない社会をめざす。大企業に内部留保の活用求め、国民の所得を増やす経済改革を実行し、格差と貧困なくす。

参議院埼玉選挙区

伊藤　岳
県民運動委員長
「原発ゼロ」の運動に奔走！

参議院比例

紙　智子
参議院議員（3期）
党農林・漁民局長

梅村 さえこ
衆議院議員（1期）

衆議院比例

塩川 てつや
衆議院議員（6期）
党中央委員

ご意見ご要望をお寄せください。

TEL/048-581-0113 FAX/048-581-0408（日本共産党埼玉北部地区委員会）まで

新埼玉 2017年 夏号外
●日本共産党の政策と見解を紹介します。
発行 日本共産党埼玉県委員会 さいたま市大宮区北袋町1-171-1

柴岡ブログ ▶▶▶

一人ひとりが大切にされる社会を

日本共産党

ここ数年、「原発再稼働反対」や「安保法制＝戦争法を許さない」と若い世代や子育て世代が立ち上がり始めました。「おかしいことには声をあげないといけない」という同世代の動きに私は希望を感じています。

市民と野党の共闘も大きくすすみました。昨年の参院選は、東北地方などを中心に野党が勝利し、ここ埼玉11区でも野党が力をあわせることができました。画期的な出来事です。

日本はいま、希望ある社会をつくろうとする市民と野党と、戦争する国づくりをすすめる安倍自公政権とが激しくぶつかり合っている歴史的な局面にあります。次の総選挙は、日本のこれからを決める大事な選挙となります。

より良い未来をつくりたい。これは、多くのみなさんの共通の願いだと思います。政治を変えるために声をあげ、手をつなぎましょう。ご一緒に、憲法守り、一人ひとりが大切にされる社会、希望ある日本をつくっていきましょう。

柴岡ゆうま

ゆうまのあゆみ

◆深谷で育って

1984年に生まれる。深谷で育ち、本やダジャレが好きな少年時代を過ごす。ドラマ「北の国から」をみて、北海道の大地にあこがれたのが中学の頃。「酪農家になりたい」という夢を持ち熊谷農業高校へ。

◆平和が原点

「勉強がしたくてもできなかったあの時代に、もうしないでくれよ」は、祖父が亡くなる直前に遺した言葉。この言葉を胸に、憲法9条を守り活かし、平和な社会をつくりたいという信念をもつ。

祖父とともに

◆あこがれた大地へ

帯広畜産大学での学生時代、カーリング部に入部し、寒い冬を熱くする日々を送る。自分はどう生きていくべきかを考え模索していた時期に、三浦綾子の小説「泥流地帯」に出会う。「困難な道に進む生き方にこそ、真の生き方がある」と考え、政治家をめざし、日本共産党の職員の道へ踏み出す。

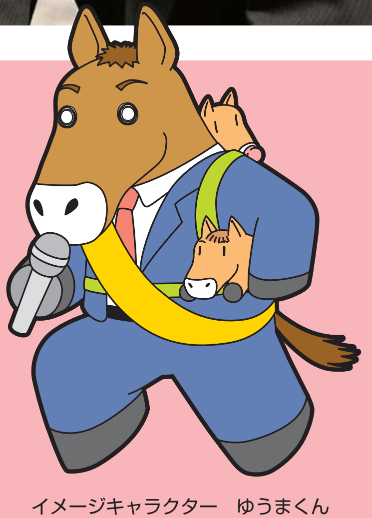
◆仲間とともに

非正規雇用や長時間労働を強いる社会を変えたいと多くの青年とともに奮闘。青年のネットワークづくりに取り組む中で、妻と出会い結婚し、一男二女に恵まれる。

育児も仕事もがんばる
イクメン代表

プロフィール

1984年生まれ。上柴西小、藤沢中、熊谷農業高校を経て帯広畜産大学卒業。2006年より日本共産党埼玉北部地区専従職員。現在北部地区委員長・中央委員。家族・妻、一男二女。深谷在住



イメージキャラクター　ゆうまくん